

第6章 施策の実施計画

【(1)「保幼小中連携教育」の推進】

	施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
1	越知町連携教育推進委員会の活性化	13部会が年50回の連携部会を開催	・各連携部会で情報の共有や課題の確認等が行われている。保幼小中の課題や現状を鑑み、組織を再構成しながら発展的な組織として今後取り組んでいく必要がある。	計画通りに各連携部会が開催され、それぞれの目的に沿った活動や取組が適切になされた。	・連携部会において、情報の共有や課題の確認がスムーズに行われ、現場に持ち帰って効果的に活用、実践されている。国や県の動向について情報を共有し、新しい教育を目指して協議がなされている。発展的な組織として、毎年、組織の見直し等、改善が加えられ、より充実した連携が推進されている。
2	合同研修や授業交流の促進	小中にて1人2回は公開研究授業を実施	・小中合同研修を毎学期実施することにより、授業改善を柱とした取組を行っている。小中の接続にあたり、授業ベーシックや教科の専門性など、小中の強みを生かした連携、言語活用能力の育成が課題となっている。	保幼は年1回以上公開保育を、小中は学期に1回以上公開授業を実施し、異校種の先生方が参観、交流ができた。	
3	新入生へのオリエンテーション	4月当初、中学校新入生全員に冊子を配布し説明を行う	・小1プロブレムや中1ギャップといった問題等に対応するため、積極的な保幼小中の積極的な連携を目指している。中学校の新入生へのオリエンテーションや引き継ぎシート等、多様な手立てを行い、円滑な接続に向けて、取り組んでいる。	4月に新入生に配布し、特活の時間等でオリエンテーションを行い、冊子を有効に活用できた。	・保幼小中間の接続について、子供を中心に据えたさまざまな引き継ぎの手立てや取組が継続してなされ、小1プロブレムや中1ギャップ等の問題が生じていない状況を連携して作れている。
4	保幼小中高が連携した「引き継ぎシート」の作成	保幼から小学校へ、小学校から中学校へ、中学校から高校へ、個別の引き継ぎシートを作成し、引き継ぐ小中では組織職員会等で活用する		引き継ぎ連絡会でシートの内容について情報共有ができた。また、シートを入学後の子供への支援に活かした。	
5	校長園長会の開催	毎月、定例の校長園長会を開催。校長、園長、学校教育1名、教育長、次長が参加。		毎月の定例会を確実に実施できた。それぞれの報告から、園・校の様子や取組・課題等について確認ができ、共通理解が深まった。	
6	保幼小中委連携行事年間計画表の作成と配布	1月の行事調整会を経て調整後、4月に連携計画表を配布		調整会で、次年度の行事計画について内容確認や日程調整ができた。年間カレンダーを有効に活用できた。	

第6章 施策の実施計画

【(2)「学校教育」の充実・学校教育環境の整備】

	施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
1	課題解決型学習の実施	高知県の授業ベーシックに基づき、小中学校で授業の流れを統一し、実践	・全国学力学習状況調査等では、基礎基本の定着や活用問題について弱さが見られる教科がある。基礎基本の確実な定着のため、学校全体で、組織的に継続して行い、一度で終わらない螺旋的な学びを意識した授業づくりや個別の加力指導での補完、個や集団を見取り、つまづきに対応した課題の与え方等、すべての子どもに確かな学力を保証していく。小中とも言語能力の育成のため、国語科はもとより全教科を通して言語活動を充実させる必要がある。	小中ともに課題解決型の授業づくりを研究の柱に据え、公開研究授業等で、新学指の具現化に向けての授業づくりが組織的に行えた。	・全国学力学習状況調査や県版学力定着状況調査、総合学力調査等における課題をしっかりと分析し、改善への手立てが確実に実施されている。
2	越知町研究指定事業を小中学校で実施	H28、29の県指定事業からH30町指定事業を引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて研修を実施	・小中学校全体で「課題解決型」学習に取り組む。小学校では授業ベーシックの質的向上、中学校では小学校の学びを活かしながら、「技能習得型」学習、「逆向き設計における単元積み上げ型(パフォーマンステストの実施)」学習を行ってきた。	小中隔年で発表会を開催し、効果的に越知の取組を発信できた。	それによって、全国平均や県平均、期待正答率など、目安となる数値に対して、ある程度上回る成果を継続して出すことができおり、学力の保証が組織的に行われている。
3	全国学力学習状況調査と高知県学力定着状況調査の実施	全国学力学習状況調査を小学校6年生と中学校3年生対象に実施	・小中学校全体で「課題解決型」学習に取り組む。小学校では授業ベーシックの質的向上、中学校では小学校の学びを活かしながら、「技能習得型」学習、「逆向き設計における単元積み上げ型(パフォーマンステストの実施)」学習を行ってきた。	全国や県で行われる学力調査に複数回参加することで、学力の定着状況や伸びを確認、課題を把握することができた。その結果を分析・把握し、子供の弱点の補強や指導の詰めに活かすことができた。	・主体的・対話的で深い学びを授業で具現化していくため探究的な「課題解決型」学習はもとより、深い探究的な学習の素地となる技能習得型での学びを徹底し、基礎基本を確実に身に付けている。国語科を核にしながら教科横断的に言語能力を育成するため全教職員で研究、推進されている。また、定期的に公開研究授業を実施するなど、県のモデルとなるような実践を行っている。
4	高知県学力定着状況調査を小学校4・5年生と中学校1・2年生を対象に実施	高知県学力定着状況調査を小学校4・5年生と中学校1・2年生を対象に実施	・小中学校全体で「課題解決型」学習に取り組む。小学校では授業ベーシックの質的向上、中学校では小学校の学びを活かしながら、「技能習得型」学習、「逆向き設計における単元積み上げ型(パフォーマンステストの実施)」学習を行ってきた。	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	・小中の課題や研修に基づき、専門性のある外部講師を招聘し、具体的な助言のもと、課題に対応した取組が行われている。
5	到達度検査の実施	総合学力調査を小学校2～5年生、中学校1～2年生で実施	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	進路選択において、子供と保護者への有益な助言・支援のひとつとして活用された。	・小中の課題や研修に基づき、専門性のある外部講師を招聘し、具体的な助言のもと、課題に対応した取組が行われている。
6	実力テストの実施	中学校3年生に進路判定のための実力テストを年5回実施	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	研究授業と研究協議を学期に2回(小1中1)以上実施し、授業改善のための研修を充実させた。	・小中の課題や研修に基づき、専門性のある外部講師を招聘し、具体的な助言のもと、課題に対応した取組が行われている。
7	小中合同研修の実施	小中合同研修を年7回実施	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	課題を把握し、適切な研修を実施し、改善につながる取組が実施できた。	・小中の課題や研修に基づき、専門性のある外部講師を招聘し、具体的な助言のもと、課題に対応した取組が行われている。
8	現状の課題に対する研修を実施	現状の課題に対する研修を実施	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	年2回行うことで、授業改善に取り組んだ結果を検証できた。自分の授業に向き合う材料として活用できた。	・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
9	授業評価システムの実施	授業改革アンケートを全教員が年2回実施	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	専門的な知識を持った講師や主事を積極的に招聘し、研修を充実させた。	・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
10	小中への講師招聘	適切な講師を派遣し、園内校内研修の充実を支援	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	先進地を視察し、課題や新たな研究に対する取組の具体を学び、現状の見直しや今後の展望に有益な情報を得ることができた。それを次学期や次次学期からの計画に活かすことができた。	・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
11	先進校視察研修の実施	教育先進地、先進校への視察を通して、学びを深め、学校教育の充実を図った	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	子供と保護者に、学習時間の目安や家庭学習の進め方等、規準となるものを示すことができた。子供へのオリエンテーションとして、有効に活用できた。	・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
12	家庭学習の手引きの配布	小学校はポスター形式で、低学年用、中学年用、高学年用の3種類、中学校は冊子を配布	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。	授業中のドリルや家庭での宿題等として、県から配布された学習用のツールを活用し、学力の定着に活かした。	・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
13	小中 国語シートを活用	小中 国語シートを活用	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。		・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
14	県配布の学習関連シートやテストシステム等の活用	中 英語ライティングシートを活用	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。		・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
15	小中 算数数学単元テストを活用	小中 算数数学単元テストを活用	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。		・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。
16	小中 理科思考力問題集を活用	小中 理科思考力問題集を活用	・小中の課題や研究に対応するため、積極的に外部から指導者を招聘し、研修をすることで、課題に対し、専門的な知識を持った講師による助言をいただき、取組を行えた。		・県作成の単元テスト、シート等を積極的に活用し、学力の定着状況について短いサイクルで検証を行い、有効な対策を取っている。

第6章 施策の実施計画

【(2)「学校教育」の充実・学校教育環境の整備】

施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
17 英語教育の充実	英語検定取得支援。中学生の英語検定2級から5級までの受験料を支援(第1回、第2回対象) 4技能の育成と授業改革の推進のため、GTECを受検	・英語検定において、中学校3年修了時に3級取得者50%を目指し、取り組んでいる。H29年度は51.7%、H30年度(2回目終了時)30.6%である。 英語検定前の取組だけでなく、4月から継続的に定期的に取り組を行い、生徒への短期、長期目標として意識付けや指導が必要であると思われる。	最終的に3級取得生徒が中3終了時に50%になることを目指す。 小中ともGTECを実施することができた。児童生徒が(タブレットを用いて)「話すこと」を体験し、指導者は実施により授業に反映することができた。	・中学校3年修了時において英語検定3級取得率50%以上を取得する。中学校では英語の4技能を統合的に習熟できている。 ・小学校では、楽しみながら外国語活動や外国語学習を行い、中学校の英語学習の素地を養うことができてい
18 図書の充実と読書活動の推進	図書支援員を小学校1名、中学校1名配置	・GTECでは、小6、中1、2年を対象に話すことを含む4技能のテストを行ってきた。テストを行うことで指導者への外国語活動や外国語の授業改善に役立っている。	常時支援員が配置されることにより、使いやすく利用しやすい図書館づくりが進み、子供や先生方の利用が増えた。また、授業で活用する機会が増えた。	・新しい本、新しい情報が定期的に更新され、子供にとって新鮮で魅力的な図書館になっている。教員が必要な資料が充実し、授業等でも活用しやすい体制が整っている。
19 「きつとあるキミの心にひびく本」冊子を活用		・図書支援員の配置により学校図書館の整備が進み、年々利用者が増えている。新刊への入れ替えや書架の整備、配置換えなど、工夫をしながら環境整備を進めてきた。授業への資料貸し出しも増え、使いやすい図書館になった。図書館の活性化によって、子供の知的興味・関心を高め、学びの土台を培っていくことが大切である。	授業等で計画的に冊子を活用し、子供が幅広い本や名作に親しむ機会を作ることができた。	・新しい本、新しい情報が定期的に更新され、子供にとって新鮮で魅力的な図書館になっている。教員が必要な資料が充実し、授業等でも活用しやすい体制が整っている。
20 情報教育の充実	教育用コンピューターの整備	・各種情報機器・設備等の適切な保守・点検に努め、子供の学習環境を整えることができた。また、機器を十分に活用し、子供に技能の習得を指導できた。	各種情報機器・設備等の適切な保守・点検に努め、子供の学習環境を整えることができた。また、機器を十分に活用し、子供に技能の習得を指導できた。	・学習支援員、特別教育支援員、学力サポーターや放課後学習室など、地域の人材等を積極的に活用しながら、手立ての必要な子供に対して、個別の支援・指導を学校の体制として組織的に実施できている。
21 学習支援員の配置(町単講師)	小学校1名、中学校2名配置	・人権講演会では、児童(高学年)、生徒を対象に年1回、実施している。児童生徒の心に届く魅力的な講師を招聘し、講演会を開催する。	チームティーチング体制で、ひとりひとりのつまづきに目が行き届き、より手厚い支援ができた。	・学習支援員、特別教育支援員、学力サポーターや放課後学習室など、地域の人材等を積極的に活用しながら、手立ての必要な子供に対して、個別の支援・指導を学校の体制として組織的に実施できている。
22 小中への外国語指導助手の派遣	小学校1、2年生は年9時間、3、4年生は12時間、5、6年生は年35時間ずつ、英語の授業を実施。中学校へは常時。	・小中学生を対象にいじめ調査や体罰調査を行っている。いじめや体罰とも年1回実施することで、小中の実態をつかみ、迅速に対応していく。	学期毎にスケジュールを立て、計画的にALTの派遣・活用ができた。保幼小からネイティブの英語に触れることで、中学校からの英語学習へのレディネスを高め、外国語学習の素地を養えた。	・子供からのSOSをキャッチするため、Q-U質問紙や各種調査、アンケート等が年に複数回実施されている。また、懸念事項については、組織的な対応が迅速かつ適切に行われている。
23 Q-U質問紙の効果的な学級経営への生かし方の研修の実施	小中学校のQ-U担当者年2回分析会を実施、小中学校にて支援会を年複数回実施	・小中学生を対象にいじめ調査や体罰調査を行っている。いじめや体罰とも年1回実施することで、小中の実態をつかみ、迅速に対応していく。	子供ひとりひとりの現状や学級集団の状態等について分析し、検討会や支援会を開いて学級経営力を高める学習の場を持った。	・子供からのSOSをキャッチするため、Q-U質問紙や各種調査、アンケート等が年に複数回実施されている。また、懸念事項については、組織的な対応が迅速かつ適切に行われている。
24 Q-U質問紙の実施、分析、支援会	小学校2年生～中学校3年生全員を対象に年2回Q-Uを実施。複数回の分析検討会、支援会、カウンセリング、個別面談などを開催。	・小中学生を対象にいじめ調査や体罰調査を実施することで、児童生徒のいじめ防止や教職員の体罰防止につなげていく。	Q-Uの結果を分析し、学級や子供の現状等について、確認を行った。学校においては個別の面談や支援会を行うなど、温かい学級づくりに活かすことができた。	・子供、教員、保護者等を対象に、温かい学校・学級づくりのための講演会や研修会などの機会を設けている。授業や学級づくり・学級経営等に学びが反映されている。
25 教員の自主的研究(教科ネットワーク)への支援	中学校は高吾北支部の教科ネットワーク研修会に参加	・いじめや体罰調査を実施することで、児童生徒のいじめ防止や教職員の体罰防止につなげていく。	町を超えて公開授業を実施・参観し、教科についての専門的力量を高める研修を実施した。	・子供、教員、保護者等を対象に、温かい学校・学級づくりのための講演会や研修会などの機会を設けている。授業や学級づくり・学級経営等に学びが反映されている。
26 道徳地域教材の開発支援	越知町の歴史上の人物や著名人等を題材に道徳教材を作成		越知町の歴史上の偉人等を題材とした道徳教材を作成できた。また、それを活用した道徳の授業を実施した。	・児童生徒のいじめの現状や心の状態を定期的に把握し、早期発見・初期対応・早期解決に役立てるとともに、調査結果をいじめに係る取組やいじめを生じないさせない未然防止の取組の実践につなげている。
27 「家庭で取り組む高知の道徳」の活用	学校で取り組む道徳教育と家庭や地域と連携しながら冊子を活用する。		小中の学級懇談会や道徳参観日等で使用することで家族や地域での活用が促された。	・児童生徒のいじめの現状や心の状態を定期的に把握し、早期発見・初期対応・早期解決に役立てるとともに、調査結果をいじめに係る取組やいじめを生じないさせない未然防止の取組の実践につなげている。
28 心に響く講演会や本物に触れる体験活動への支援	小学校中高学年と中学生を対象に年1回人権講演会を開催。		人権について心に訴える講師を招聘し、自分の生き方や日頃の行動・生活等につなげて考える機会となった。	・体罰について、教職員、児童生徒、保護者が許されない行為であることを再認識し、体罰の事態について振り返るとともに、学校現場において、体罰の根絶の根絶につなげている。
29	保幼小の連携行事の実施。		本物の芸術や技術などに触れ、豊かな感性を育む機会となった。	
30 いじめ調査の実施	小中学生全員を対象に、高知県の調査様式で、いじめの実態調査を年2回実施。Q-Uのいじめに関する質問項目を含めると年4回。		年4回の調査を確実に実施し、結果に対して適切に対応を行った。懸念発生時には、被害者の立場に立って、越知町いじめ防止基本方針に基づき、県と協働して適切に対応できた。	
31 体罰調査の実施	小中学生全員と保護者を対象に、高知県の調査様式で体罰調査を実施。		小中すべての子供・保護者ならびに教職員を対象に調査を実施した。懸念発生に際しては、被害者の立場に立って、県と協働して適切に対応できた。	
32 人権ライブラリーの活用と充実の推進	年間2万円の予算で保幼小中へ人権学習用の教材(図書・DVD等)を購入		保幼小中の希望を調整し、新しい教材を配置できた。また、教材が有効に活用された。	
33 越知町中学生国際交流事業	中学3年生を対象に海外研修を実施。生徒の語学力向上と国際感覚を養うことを目的とし、国際社会に対応できるグローバルな人材育成を目指す。	ほとんどの生徒が初めての海外体験であり、現地の言葉や生活文化に触れることができる貴重な機会となっている。	語学研修やホームステイを通して、海外の言葉や人・文化により深く触れることができた。海外への興味が深まるとともに、日本の良さもあらためて感じる事ができた研修となった。	生徒が日々の学習に一層意欲的に取り組むことができ、将来への夢や希望に繋がるような体験ができる研修内容としたい。

第6章 施策の実施計画

【(3)おち家の「チーム学校」の推進】

	施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
1	学校評価を活用した学校改善を促進	小中学校において、学校評価を1月までに実施、2月に報告書を提出	・学校運営協議会の発足に向けて、コミュニティスクール推進委員会を定期的に開催している。	学校評価の報告を受け、次年度に向けての改善点について、各校の方針をしっかりと確認できた。	・学校運営協議会が、学校の主体で計画的に開催され、地域の声を生かした学校運営がなされている。また地域も、学校の教育課題を十分に理解し、改善・解決に向けた協力体制がしっかりと構築されている。
2	地域教育推進協議会の活性化	種々の組織を、学校支援組織へと調整・再編し、ボランティア人材の活用もはかっている	・平成27年4月から学校支援ボランティアの募集を開始し、地域人材の活用を推進していく準備を進めている。	地域コーディネーターを中心として学校を支援する構想を明確に打ち出し、組織の再構築や連携が進んだ。	・地域コーディネーターが地域と学校を結ぶ核となり、ボランティア員や既存の組織等と協力して、様々な教育活動への支援にあたっている。1年を通して地域の人々が学校の教育活動に参加し、地域を巻き込んだ学校づくりが推進されている。
3	学校運営協議会の開催	小学校5名、中学校5名の委員を置き、年4回の協議会を開催。	・平成27年4月から地域と学校を結ぶコーディネーターを設置し、学校支援地域本部の設立を目指して活動をしてもらう。人物の選任や活動内容、業務等について協議を重ねている。	計画的に推進委員会が開催でき、各校の取組課題に対して建設的な協議が実施できた。	
4	広報「おち」を利用し、園・学校の状況を発信	毎月「広報おち」に保幼小中のコーナーを設けて活動を発信		広報おちや学校だより等で、コミュニティスクールに関する情報や進捗状況などを定期的に発信することができた。	
5	地域人材の活用を支援	ふるさと講師、学力サポーター、特別支援教育支援員、部活動外部コーチ等において地域人材を積極的に活用		ふるさと講師、学力サポーター、特別支援教育支援員、部活動外部コーチ等において、地域人材が学校内に積極的に支援に入る機会を作れた。	
6	放課後学習支援員の派遣	小学校へ200時間、中学校へ年間500時間、数名を派遣	・すべての子どもに確かな学力を保證するために、ドリルや反復練習、個別の加力指導など、基礎基本の確実な定着のための手立てを実施していくことが大切である。	・学校の要請に応じて、希望に沿った派遣を実施してきた。また、派遣によって、子どもへの支援を手厚く効果的に行うことができた。	・学習支援員、特別教育支援員、学力向上サポーターや放課後学習室など、地域の人材等を積極的に活用しながら、手立ての必要な子どもに対して、個別の支援・指導を学校の体制として組織的に実施。
7	スクールカウンセラーの配置	小中学校兼任で1名、年30回前後派遣	・スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、特別教育支援員、ふるさと講師等、専門性を持った人材を派遣し、個への支援、学校への支援を充実させている。	毎月の実績報告によって、各校においてSCを有効に活用できていることが確認できた。また、SCを授業や支援会など、幅広い機会に活用できた。	・専門的な機関や、専門性を持った人材を活用できる体制が整っており、子供や保護者、担任の困り感に寄り添う支援が行えている。
8	スクールソーシャルワーカーの配置	保幼小中兼任で2名、年1,128時間派遣	・エンカウンターや人権講演会、人権ライブラリーなど、心を育むための機会を設け、温かい学校、学校づくりを進めている。	各校・園においてSSWを有効に活用できている。SSWが保幼小中と地域(保護者等)をつなぐ役割を果たし、要として機能している。	
9	特別支援教育支援員の各校への配置	小学校へ5名、中学校へ2名配置	・Q-U質問紙、体罰調査、いじめ調査など、実態把握のための手立てを複数回設け、SOSを出している児童生徒を早期発見するための体制を整えている。	学力や人間関係が心配な子供のために、適切な数の支援員を配置した。学校においては、個別に支援できる体制を整え、年間を通じて有効に活用できた。	
10	高岡地区北部特別支援教育研究会への協力と支援	後援	・特別に支援の必要な子供について、教育相談や巡回相談など、外部の専門機関から助言をもらう機会を設け、子供や保護者、担任への支援を充実させている。	他校の子供と交流する機会を持つことができ、子供の意欲向上につながった。	
11	特別支援学級やADHD/LD等の園児・児童・生徒への教育相談、巡回相談の実施	日高養護学校へ教育相談の手配、特別支援学級交流事業の手配、中部教育事務所へ巡回相談の手配		学校や保護者の要請に応じて、適切な相談・事業を実施することができた。また、その結果について学校等へ助言し、子供への支援に活かすことができた。	
12	「総合的な学習の時間」の充実に対する支援	小中学校へふるさと講師を年35時間派遣。		特活・総合・道徳などの時間において、郷土について学ぶ時間を設け、子供の関心や知識を高めることができた。	
13	教育相談員等による学校への支援	ケース会、実務者会を随時開催		事案発生に際して速やかに会を開き、迅速かつ適切に、関係機関と協働して対応できた。	

第6章 施策の実施計画

【(4)「就学前の子どもたち」の教育の充実・保育環境の整備】

	施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
1	保育者研修	保育者のキャリアステージにあった資質・指導力の向上	教育センターや幼保支援課等の研修や研究大会、職員会や園の公開を通して、研修を進めてきた。保育の質、専門性を高めていく必要がある。	子どもたちの発達段階に応じた保育・教育の実現のため、研修を通して保育士や教員の資質や専門性を高めることができた。	・研修や園評価を通して、園運営や教育活動を振り返るとともに、次年度の改善を図り、教育・保育の質、保育者の専門性を高めている。
2	園内研修の充実	職員会や研究大会での公開園等を利用して園内研修の充実を図る。		園内や公開保育などを通じて、保育実践力を高めることができた。	
3	視察研修	先進的な取り組みをしている保育園・幼稚園を視察し、保育園保育指針、幼稚園教育要領の具現化を図る。	臨時職員の不足により、視察研修や研修会に参加できにくい現状がある。	職員全員が保育園保育指針、幼稚園教育要領に基づいた保育・授業ができること。	
4	園評価の実施	園評価を実施し、園経営等に活かす。	園評価を実施し、園の経営や園活動に活かしている。さらに県の「園評価の手引き」の配布・活用しながら、充実させていく。	園評価を行い、本年度の取組の振り返りや次年度の園運営や活動に反映できた。	
5	園への外国語指導助手の派遣	保育園と幼稚園へは毎月1時間程度の英語の授業を実施し、英語に触れる機会を作る。	保幼とも、ALT2名が毎月訪問し、1時間程度、英語の授業を実施している。子供たちが楽しみながら英語に触れることができています。	学期毎の計画的なスケジュールの下、ALTの派遣・活用ができた。保幼からネイティブの英語に触れることで、小中学校からの英語学習へのレディネスを高めることができています。	
6	基本的な生活習慣の確立に向けた取組	基本的な生活習慣の確立に向けて家庭と連携した取り組みを推進する。	現在は、ほぼ基本的な生活習慣が確立している。	早寝、早起き、朝ごはんが定着した。	多くの子どもたちに、規則正しい睡眠や食事など基本的な生活習慣が確立されている。

第6章 施策の実施計画

【(5)学びと育ちを支える「子育て支援」の充実】

	施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
1	子ども・子育て支援事業計画	子ども・子育て支援サービスの需給量の見込みや提供方策等を計画することを目的に、アンケート調査を実施する。		第1期子ども・子育て支援事業計画を見直し(H31)、第2期子ども・子育て支援事業計画を策定し、方向性に基づいた各事業を実施することができた。(H32～H35)	子どもの貧困、学力の未定着、経済的負担増等、子どもにとって困難な状況を解消し、また保護者の子育て力の向上を支援するとともに、準要保護制度による支援、高校通学支援、奨学金制度の活用など、切れ目のない対策を講じ、貧困の世代間連鎖を教育の力で断ち切ることを目指して、厳しい環境にある子どもたちへの支援を推進する。
2	放課後児童クラブ(コスモスクラブ)	越知小学生児童のうち、両親等が就労等により、保育に欠ける児童に対し、保護者の代わりに保育する。		該当年度の利用者に対し、適切に保育することができ、保育に欠ける児童に対して放課後児童クラブを運営することができた。	
3	就学援助支給	経済的理由から就学が困難な児童生徒の保護者に対し、必要な経費の一部を援助する。	家庭の教育力を補完するために、保護者への啓発活動や、厳しい環境にある児童生徒に対して支援を行う必要がある。また保護者の経済的負担の軽減などを通して、貧困の世代間連鎖を教育の力で断ち切るよう支援する。	該当年度の申請者に対して、必要経費の一部を支援し、経済的負担を軽減することができた。	
4	越知町奨学金	学資支弁の必要な、優秀な学生及び生徒に対し、奨学資金を貸付ける。		越知町奨学資金貸付規程に基づき、奨学資金を適切に運用することができた。	
5	高校生通学支援事業	高等学校に通学する生徒に係る経済的負担の軽減を図るため、通学に要する経費に対して、補助金を交付する。		越知町高校生通学支援事業補助金交付要綱に基づき、高校通学に要する経費を補助し、経済的負担の軽減につながった。	

第6章 施策の実施計画

【(6)「安心・安全」で質の高い教育環境の実現】

	施策(取組)	概要	課題・現状	評価指標	目指す姿
1	児童生徒の防災対応能力の向上	5月に保幼小中委合同避難誘導訓練を実施	・合同避難訓練は、中学生が保育園児を連れて、小学校高学年が低学年を連れて、安全な経路を確認しながら、避難場所まで歩く実地訓練となっている。毎年少しずつ改善を加えながら実施できている。異動で初めて越知町に赴任した教師にとっても貴重な練習の機会となっている。地震が起こったとき越知にいたっては限らないことを想定して、防災の専門家を招き、将来に渡る知識を身に付けるための総合的な防災学習も定期的実施している。	園・学校関係者全員が、避難所である町民会館への避難経路を実際に確認することができた。協力し合って避難することの大切さを考える機会となった。	合同避難訓練や防災学習が継続して実施され、命を守るための基本的な知識が身についた子供たちが育っている。
2	学校の危機管理能力、防災力を高めるための教育の推進	高専の岡林宏二郎教授を防災スーパーバイザーとして毎年定期的に招き、小中学校にて防災学習を実施		専門家を招いて防災学習を実施し、命を守る意識を高めることができた。また、県作成の教材を活用した授業を行い、防災に関する基礎知識を身に付けることができた。	
3	園児、児童、生徒の安全を確保する設備の整備	通学路点検、体育館落下物点検、校内安全点検の定期的な実施	・通学路等の合同点検については、保護者の意見をもとに、警察や道路管理者等、関係機関とともに実施。警察等の意見を参考に安全対策を検討している。園内・校内の安全点検については、目視だけでなく、定期的に専門的な点検が必要。	各種定期点検を確実に実施できた。また、学校からの点検報告を受け、適切に対応できた。	安全確保に向け定期的な合同点検の実施や対策の改善・充実等の取組を継続して推進するため体制を構築。